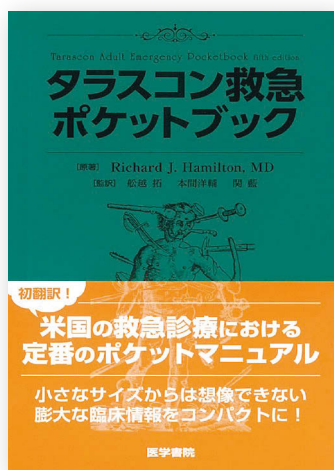




救急を専門としない医師や 当直で四苦八苦する研修医たちの 「心の友よお〜」

評者 林 寛之 福井大学医学部附属病院 教授・救急科総合診療部長



タラスコン救急 ポケットブック

Richard J. Hamilton = 原著
船越 拓、本間洋輔、関 藍 = 監訳

定価：本体 2,600 円＋税
A6 変型・308 頁／医学書院／2018
[ISBN978-4-260-03547-7]

タラスコンといえば、南仏プロヴァンスの町。紀元前に退治されたという怪物「タラスク」に思いを馳せる盛大なお祭りが、落ち着いた街中で盛大に行われるという。でも救急の世界では、タラスコンは「怪物」にも似たものすごく膨大な情報を詰め込んだ本書を意味する。コンピューターや電子書籍が発達した昨今、膨大な量の情報を持ち歩けるようになったとはいうものの、検索のすばやさ、目の通しやすさにおいては、やはり目の前にある書籍に勝るものはない。

救急の良書は、最近たくさん世に出ている。診断力を鍛える本は多いものの、診断がついたあとの治療まで手を伸ばすのはなかなか難しい。そんな膨大な情報を包括できる本など持ち歩けるはずもない。ところが、パッパパッパパ〜ララ〜！（ドラえもんが秘密の道具を出す時のジングルで）このタラスコンは、まさしく知識の宝庫、実臨床で使う情報が細かく書いてある。

実際の臨床では、「あの診断基準って何だったけ？」「吐血の Blatchford score って何だったけ？」などの状況下では、記憶の助けになる。めまいも Epley 法のみならず HINTS exam にも言及しており、情報が新しく日本語訳も読みやすい。敗血症においては Sepsis-3 にも対応し、情報は原本よりもっさりアップデートされているので、この日本語版はとってもお得。

鑑別診断も、ただ羅列するのではなく、頻度も記載してあるのはうれしい。内科のみならず、外科系や産婦人科なども広くカバーされ、救急を専門としない医師や当直で四苦八苦する研修医たちの「心の友よお〜」（ジャイアン風に読んでください）になれる 1 冊。

タラスコンでは、「感染症」に対して実に多くのページを割いている。ハリソン（『ハリソン内科学』）だって感染症の項目は最も多いもんね。中毒なんて普通の当直医が知るはずもなく、本書は実にコンパクトにうまくまとまっているので、どこに何を書いてあるかを知っておくだけで、“夜の強い味方”になる。生物・化学・放射線曝露に関しては、救急のプロでさえ覚えていないことが多く、ホントに役立つ。

非常にコンパクトで、ただ普通のポケットに入るだけでなく、胸ポケットに入っちゃうのが実にすごい。胸ポケットから緑色の本書が見え隠れするのは、何となく格好いいぞ！

ただ、これだけの膨大な内容を細かく記載するとすると、文字も細かく、びっしり埋まっていて、老眼が進んだ医師にはどうにもこうにも読みづらい……。でも、これだけ現場で使える情報を詰め込んだとなれば、きつといざという時にあなたを助けてくれる。まあ、読み物というより、しっかりした辞書みたいな完成度だからね。そこは、実用性をてんびんにかけて、大いに活用しようではないか。

